

令和2年7月(2020年) No. 655

コロナで休会続き

4ヶ月ぶりに例会が復活

新型コロナのせいで緊急事態宣言下、OMC 例会も3～5月の3ヶ月間自粛要請に応じて休会を余儀なくされましたが、ようやく解除され、6月例会が開催することが出来てほっとしております。

普段はこれが当たり前だと思ってきた例会が、急にできなくなっではじめて、人と会い、おしゃべりすることが如何に楽しい事か、幸せな事かと改めて感じ入りました。カレンダーの予定表がほとんど埋まっていたのが、すべて中止となり、一人家に居てテレビばかり見ていると、人と話したい、会いたいという思いが募り、心身ともに不健康になります。鬱になる人はこういう状態が続いて孤独感が強いのだと思います。

4ヶ月ぶりでお会いした会員諸氏は皆さんお元気で安心しました。最も皆マスク姿で笑顔も半分といった淋しさはありましたが、会場の学習センターからも「三密」対策を要請されていますので、マスク姿、席も空けて座る、入口扉も開けっ放し、といった対策が必要でした。当日は近接の部屋は空室でしたので、音漏れの苦情はありませんでした。これからもこうした対策のもと当分、例会が続いていくでしょう。新型コロナ禍の第2波第3波が来て再び会場閉鎖にならないことを願うばかりです。

第60回記念 OMC 映像フェスティバルは予定通り

令和2年11月28日(土)朝日生命ホールで開催。11月になっても「三密」対応を言われるかもしれませんが、民間のホールで定員480名ほどの広さがありますので、200名ほどの入場を見越してプログラム発送します。作品は9月4日(金)幹事会でプログラム編成を致します。新作にこだわらず、自信作での構成を考えていますのでよろしくご協力ください。(合原)



7月例会のお知らせ

- 第2例会；7月16日(第3木曜日)13時より、課題コン「実」作品お持ちを。課題コンのあとは一般作品上映。
- 通常例会；7月25日(第4土曜日)18時より、いずれも会場は難波市民学習センター

YouTube 利用の課題

OMC では会員限定の条件で YouTube を介して作品が欠席者にも観られるように進藤氏が作品を登録していますが、このほど以下のような警告が出たとのことです。

- ①著作権に問題のある BGM が使われていること。
- ②特定の船の名前がわかる「映像カット」がある。
- ③看板がはっきり映っているカットがあること等々

これまで音楽に関しては著作権問題云々の件は良く耳にし、コンテストに出す場合は著作権フリーの音楽を使っていますが、例会作品でも YouTube にあげるとなると注意しなければならない、ということが改めて認識されました。一方、画像の方も特定の企業の PR 看板など YouTube でも問題視されるとは初めての経験でした。道頓堀などを撮影すると看板だらけなので、どう注意したらよいか、新しい課題です。公開映写会作品も気を付けないといけません。

■森口吉正さんが退会

健康上の理由で退会されましたのでお知らせいたします。司会役は会長が変わって努めます。受付は空いている人が適宜応援代行お願いいたします。

会議システム「ZOOM」の活用紹介

その目的と現状について

進藤 信男

コロナ禍後の OMC 活動の一つとして、その取り組みに挑戦を試みしたので例会の場を借りて紹介しました。

はじめて体験する、今回の外出規制は「在宅勤務や学校のオンライン授業」、「Alone & Together」「Social Distance」等々聞きなれない言葉と共に新しい生活様式を求められました。

そんな中で、技術進化が進んだ IT 環境が紹介されソフトウェア「Teams と Zoom」が大きく利用されていることが分かりました。高齢化が進んで、外出がしんどくなる自分たちには役立つのではないかと。

そこで浮かんだのが、在宅していても会員みんなと会える、話し合いが出来る。そのためには、Zoom が使える、出来る人を増やさないといけない。

作品づくりは、健康維持と増進のためにも止めたくない。当面できることは、何があるか。少しでも、向上心が湧いてくるような、刺激してくれることが出来ないか。

会議ではないが、参加者全員が一画面に映し出され、自由に話し合いが出来る、無料でもかなりの事が出来るソフトウェア「Zoom」がありました。

「フラットな運営が出来て、ビデオについて自由に発言が出来る。質問や応答が出来る」「作品づくりの悩みなども気軽に発言できる場が作れるのではないか」「編集タイムのラインやカーソルの動きも映し出される」「ツールである Zoom の操作は、そんなに難しくない」いずれにしても、全てが初めての挑戦で試行を試みました。

隔地のビデオ仲間が、試行や模索をされていることも分かりました。既に、そのグループと交流を持っている OMC 会員がいることも分かりました。久しぶりの 6 月例会を終わり、これまでの期間に、パソコンの準備をされた方、スマートフォンで試みられた方、興味を持ち賛同された方など 10 名程度がおられる。

これを機会に、運営負担費用もほとんど必要としないことが分かりましたので、任意のグループとして活動を始めてみよう。

各会員の家庭での活動になるので、それぞれの事情に負担をかけないことに留意しながらやってみよう。

例会では、皆さんの席でパソコンやネットワーク利用が出来ないことがあり、具体的な説明が難しい。これからの実績を見ていただき、運営の中に入りがし易いシステムの特徴も上手く利用しながら進めよう。

「フラットで自由な発言が出来る相互研鑽の場」にして、ビデオをこれからも長く楽しく続けていける事を目指そう。例会での発表を通して、「みんなが初めて体験できる今が最適」そんな思いを強くしています。

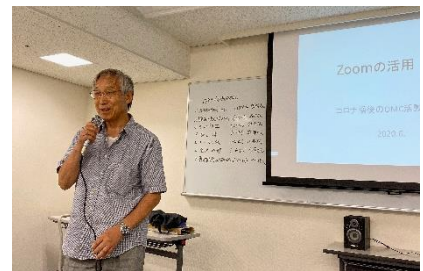
6 月例会レポート

緊急事態が解除された現在でも難波市民学習センターのコロナ対策で 3 密をさける様に要請されている。

そのような状況で開催したにもかかわらず参加者は 16 名、作品提出件数も 13 件と盛況な例会となりました。

今回作品数が多く、時間内に作品が紹介できない事態となり堀氏と関氏の作品は残念ですが次回お持ちいただくこととなりました。

又、進藤氏パワーポイントによる「zoom」の講義と、取り組み動画の紹介などコロナ禍での世間の IT 技術



の取り組みが紹介されました。

■運営担当：司会 合原、書記 中川、映写 坪井、メモリー記録 中川、受付照明 江村、森下の各氏

■出席者：江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、関、高瀬、坪井、中川、中村、野田、華岡、森下、森田、山本の16氏



上映作品（今月の書記は中川氏）

1. アンテロープキャニオン BD
華岡 汪 12分54秒

「作者コメント」

アメリカのナバホ国にあるアンテロープキャニオンはナバホ族の聖地であった。観光地化されたのは、1990年代に入ってからで、すべてナバホ族住民の管理によって、厳重に運営されている。



下の中央に円形劇場の様な突塔群

2. 醸造の香りに生きる町 BD
岡本至弘 11分00秒

「作者コメント」

2017年にOMCの撮影会の下調べに行った時に撮影したものを編集してみました。悠久の刻を経て今の時代に語り掛けてくる匠の技と文化が息づく街を撮りました。折から「ゆあさ行灯アート展」があるというので日が暮れるのを待ち撮りました。翌朝、早く出かけて栖原漁港では、シラス漁に出くわしました。

完成率90%です。ナレーションを入れようか思案中です。



3. 片上鉄道 BD
紙本 勝 10分00秒

「作者コメント」

岡山県備前市の片上駅から柵原駅まで柵原鉱山の硫化鉄鉱を運ぶ目的での3.4Kmは今から17年前に廃線、その跡は片上ロマン鉄道となり、桜の時期、動態保存の列車が走る風景に満足できる廃線探訪となりました。



4. 「寅と虎」信貴山朝護孫子寺 BD
進藤信男 12分30秒

「作者コメント」

前の寅年、西暦2010年・平成22年、干支に因んで節分の日に参拝した「信貴山 朝護孫子寺」(ちょうごそんしじ)。そこは、古代日本の形が作られていく過程で、日本古来の自然神信仰・神道と百済から渡来した仏教の受け入れを巡る勢力争い。天皇の後継者選びが絡んだ権力闘争の場であった。

河内・渋河(しぶかわ 現在の東大阪八尾)を本拠地とする物部守屋、大和橿原を拠点として百済国王から勧められた仏教の受け入れを推す蘇我馬子。用明天皇の後継問題を抱える聖徳太子。蘇我馬子が聖徳太子に味方して勝利し、崇峻天皇(すしゅんてんのう)が誕生したという権力争いの場でもあった。そして、河内に四天王寺が創建され、やがて初めての女性天皇・推古朝へと続いていく。

信貴山は、大和と河内を結ぶ要衝の地であったことがよくわかる。またこの時期、大和政権を支えてきた高句麗や百済の渡来人が多かったとされるこの地域。そんな歴史の中で生き続けてきた朝護孫子寺とはどんなところなのだろうか。現在の姿を通して、楽しんでみる事も出来るのではないだろうか。

資料「日本の歴史」朝日新聞社刊



5. ローマの旅 BD
山本正夢 12分00秒

「作者コメント」

今コロナで大変な時期ですが、流行前に訪問出来たのが幸いでした。イタリアの友人もコロナに罹り大変心配しましたが、幸いよくなったようです。



ヴィットリオ・エマヌエーレ2世記念堂 1911建

6、「追憶の館」

BD

合原一夫

8分15秒

「作者コメント」

JR東が設立した「鉄道博物館」初めて訪れたが、若いころ九州から東京へ寝台特急に乗って上京していたころを思い出し懐かしかった。



7、霧島観光とんぼ返りの旅

BD

中川良三

7分33秒

「作者コメント」

船中2泊3日の旅。

今はコロナ禍の中、3密の最も象徴的な状況と言える船旅。観光船ではないがフェリーでも相当の大きさ、船内は4階建てで、中にはエレベーターもある。

現地での観光は、霧島神社、霧島温泉、関の尾滝公園と慌ただしかったがそれなりの楽しい旅であった。



8、令和よさこい

BD

江村一郎

8分40秒

「作者コメント」

よさこい祭りの始まりを知らせる花電車からスタートします。はりまや橋に「南国土佐を後にして」の歌碑がある。原曲は戦地で鯨部隊がふるさとを偲んで唄われた。この曲に関わった作曲家の武政栄策さんはよさこいの生みの親でもあり「よさこい鳴子踊り」(1954)を著作権オープンにしたので自由で多彩なよさこいが生まれた。



9、「東日本大震災7年目 報道番組」 DVD

中村幸子

13分00秒

「作者コメント」

一昨年、まだ残雪が眩しい3月末から宮城県の南三陸町に何時もの様に一人取材ロケに行った。この年は東日本大震災7年目だと言うのに浜辺の人家は消滅し、嵩上げをした高台に建つ真新しい市場は人影もない。

私一人が三脚を立て深閑とした市場の風景を撮影していると山形のTV朝日、報道局の報道主任に声を掛けられたのがきっかけで丸2日間に亘り長時間、私の取材姿を追いながら撮影取材を受けた。この放送は山形県と宮城県の2局が「震災7年目報道番組」として放映。のちにTV局から短く編集をした13分のDVDを頂いたものを今回OMC例会で上映。

復興7年を経過した町と言うには余りにも寂しい光景で愕然とした。過去に3度訪れ取材したが、年数が経過しても復興が進まぬ街の姿、工事関係車両だけが行き交い、人々は一体何処へ？津波を避ける為、山の上の復興住宅に住む。お店も無く食料移動販売車で命を繋ぐ。

未曾有の津波被害のロケ地の取材には被災者と同じ様に私も諦めと虚しさが交叉する、それでも地元の人は強い。津波で過去の全てを流された遠い記憶と幻想を抱きながら生きているのが私には尚辛い。レンズの先に見えるこの光景に何時もながら胸が詰まる想いがする・・・



10、木と光の影に

BD

上総秀隆

7分04秒

「作者コメント」

コロナ自粛直前の2月16日フェニーチェ堺で開催された合唱祭にわが地元から30年以上続いている“ばばさんコーラス”が出演。東日本大震災の被災者たちに想いを馳せながら名曲を歌い上げた。



11、カルガモの子供たち

BD

高瀬辰雄

11分30秒

「作者コメント」

5月、京都鴨川にたくさんのカルガモの子供たちがいます。その中には700メートルほど離れたお寺の人工池で生まれ、歩いて鴨川に来た8羽の子鴨も居ます。しかしどうした訳か池に2羽置き去りにされていました。そんなカルガモ親子の様子を観察風に描写してみました。

